

鶴岡市総合計画審議会 企画専門委員会 会議概要

- 日 時 令和6年10月16日(水) 午後3時00分から午後4時30分まで
- 場 所 鶴岡市役所6階大会議室
- 出 席 者 別紙委員名簿のとおり(委員13名中9名出席)
出席委員 浅野憲周委員、渡邊一弥委員、市川至音委員、平智委員、森木三穂委員、清野康子委員、瀬尾利加子委員、高谷時彦委員、大和匡輔委員
欠席委員 鎌田剛委員、菅原剛委員、屋代高志委員、鈴木淳士委員、
- 傍 聴 者 なし
- 協 議 (1) 総合計画後期基本計画の進行管理について
(2) その他
- 報 告 (1) 鶴岡市デジタル田園都市構想総合戦略について(人口ビジョンの改定スケジュール)

意見概要(五つの加速化アクションごとに整理)

「若者・子育て世代に選ばれるまちづくり」について

委員

- ・合計特殊出生率のKPIが1.8と設定されているが、これは全国で最も高い沖縄県の水準に近い数値であり、現状の目標値は若干高めではないかと考える。出生率の目標達成のためには、その前段階の施策として、成婚率の向上策や若年層人口の増加施策などの具体的な取り組みにも目標値を設定し、段階的に実施することが大切だと考える。子どもの遊び場について、事業評価・課題に「既存施設の利用料軽減や公園の遊具更新を望む声が多い」とある。
- ・子どもの遊び場について、事業評価・課題に「既存施設の利用料軽減や公園の遊具更新を望む声が多い」とある。私は市内中心部に住んでいるが、中心部の公園は遊具が充実していないか老朽化が進んでいるため、周辺地域の公園を利用している。例えば美咲町の鶴岡西部公園は遊具が充実しており、よく利用している。今後、中心市街地活性化の施策を進めるのであれば、親子連れを呼び込む観点から、魅力的な遊具の設置が必要と考えるため、検討を願いたい。
- ・中心市街地活性化と子どもたちの外遊び奨励の観点から、鶴岡市内の市街地における歩道未整備の道路について意見を述べる。歩道未整備の道路が多いため、子どもの単独歩行や自転車通行に危険が伴い、親としても子どもを自由に外出させることができず、やむを得ず車で公園まで送迎している。他の保護者の様子を見ても、同様に車での送迎が多いように見受けられる。これにより子どもたちが出不精になる懸念がある。歩道や自転車道の確保により、子どもたちの自主的な外出を促し、結果として中心市街地の歩行者増加にもつながると考えられる。道路幅や予算の制約により歩道整備が困難な場合は、路面への区画線の設置など、自動車と歩行者の通行区分を明確にする工夫が必要と考える。

「SDGs 未来都市の実現」について

委員

- ・災害時の個別避難計画の作成について、色々な関係者が連携しながら、要配慮者の方の避難を支援し、非常に丁寧に作られていて素晴らしいと思う一方で、関わる人が限定的になってしまうのではないかという気がしている。もっと地域全体で助け合えるような取組や仕組みを一緒に作っていければ良いと思う。
- ・今年、小学生を対象に、自分の避難行動計画としてマイタイムラインを作ってもらった。それを一過性で終わらずに、そこで学んだものを、家庭に持ち帰って家族や地域の方に教えたりして広げていくと、関係者だけでの取組の限界を超えられる可能性もあるのではないかと思うので、そのような工夫を入れていくと良いと思う。

委員

- ・現在、具体的に医師・看護師確保に係る対策委員会のようなものはあるのか。何十年もやってきても増えないような状況であると思うので、医師・看護師確保に注力するようなプロジェクトがあると良いと思う。小児科が少ないと、移住・定住の促進や若者を呼び込むという部分で不安材料になると思うので、やはり一緒に医療の安心というものも考えていただきたい。市立病院だけの話ではなく市全体で考えてほしい。

→（事務局）

- ・市内病院でも医師確保、近年では看護師確保が非常に大きな課題になっている。医師確保については、基本はどうしても各大学病院等の医局人事が中心になっており、時々民間の紹介会社からの医師採用もあるが、医師確保に苦慮している病院は多い。
プロジェクト化の建て付けは取っていないが、各種取り組みを地道に取り組んでいる。一方で、国でも最近医師の偏在化対策を打ち出しており検討が進められているようである。山形県、また市内の中でも、医師偏在が見られるので、県にも強く要望をしている。

委員

- ・当団体では、特に「居場所づくり」に取り組んでいる。高齢者の一人暮らしがこれから増えていくので、食、健康、介護などの物理的な面だけではなく、精神的な面のケアにも取り組んでいる。具体的には、店舗や組合員集会所などの当団体の施設に集まっておしゃべりをしたり小物を作ったり、体操をしたりなどを継続して行っている。
- ・SDGs の誰一人取り残さないということ言えば、健康や介護などのケアとセットで、孤立している高齢者をどこかに結びつけるような、そういった精神的な視点も必要であると思う。行政と一緒にやっていきたいという思いもある。

→（事務局）

- ・地域包括ケアの推進に、重層的支援体制整備事業があり、全世代・全対象としており、近年孤独・孤立対策推進法が施行され、高齢者に限らず、悩みを抱えている方により添いながら、地域の中で支え合いながら様々なアプローチを皆でやっていくという取組である。
また、地域の福祉推進事業の推進では、ヴァルネラビリティのある人（社会的につながりの弱い人）に対して、年代などを問わず支援していく社会づくりを進めている。

- ・包括ケアの取組は行政だけではなく、地域の様々な資源を包括的につないでいくことが大事なので、特定の人や団体だけでなく、その地域にある様々なものすべてが対象となる。

委員

- ・共生社会の推進において、外国人に対するやさしい日本語の普及は長期的に重要だと考えるが、言語習得には時間を要する。即効性のある対策として、まずは行政施設の重要な案内板へ英語を併記をすることや、予算的な課題はあるかもしれないが、市役所総合案内への英語対応も可能な職員の優先配置などもご検討いただきたいと思う。特に出羽庄内国際村では、今後鶴岡在住の外国人へのサポートが拡充されると聞いているため、例えば、外国人住民の就労支援や免許の書き換えなどの相談時に英語対応できる職員の常駐など、ご検討いただきたいと思う。

「産業振興と人材育成」について

委員

- ・ベンチャー企業の40歳未満従業員数のKPIが現状でCランクとなっているため、要因分析とベンチャー企業へのヒアリングを通じた課題解決への取り組みを求めたい。サイエンスパークの関係者との対話から、子どもの小学校入学のタイミングで母国や首都圏に帰還する家庭が存在するという情報を聞いている。この情報は限られた対象者から聞いたものであり、サイエンスパーク従業員全体の意見を代表するものではないが、この状況を改善するために、就労者への直接的なヒアリングを通じた教育環境の充実を含めた具体的な改善策の検討を求めたい。若者・子育て世代に選ばれるまちづくりににおける教育環境充実への参考意見として検討を願いたい。
- ・鶴岡イノベーションプログラムに昨年参加した経験から、本プログラムの有効性を実感している。一方で、今年度の2期目も前回同様、平日の日中の開催となっており、プログラムの魅力は高いものの、事務局からは集客の困難さを聞いている。一般の会社員を対象とする場合は、土日開催や平日夜間開催なども検討していただきたいと思う。

「交流人口の創出・拡大」について

委員

- ・図書館本館の整備に関し、スマートフォンを用いて時間や場所を問わず意見表明が可能なデジタルプラットフォームを活用した市民意見の聴取は、通知機能により市民が気づきやすく、いつでもコメントできる点で非常に効果的だと考える。新図書館建設の議論にとどまらず、この仕組みを他のパブリックコメントや専門委員会での意見収集にも展開していくことで、市民からの意見収集の活性化が期待できる。また、デジタルプラットフォームでの議論はテキストベースであり、コメントが記録として保存されることから、議事録作成等の作業における職員の負担軽減にも資する。また、鶴岡市の公式LINEや学校現場などの多様なチャンネルを通じた普及活動により、確実にフォロワーを増やしていくことも重要である。

→（事務局）

- ・図書館ミーティングの前後での情報発信や、図書館ミーティングで出された意見などをデジタルプラットフォームに掲載し、さらに意見などを伺うツールとして実運用している。プラットフォームの入口は図書館のホームページで、そこからディスコードへアカウント登録していただく流れとなる。使用開始が9月下旬であるの

で、件数はまだ少ないが、今後普及することによってご意見がさらに集まるよう取組をしたいと思う。

委員

- ・移住・定住の促進において、現行のお試し住宅プログラムは有効だと思うが、KPIは移住件数のみとなっている。移住は複数の意思決定プロセスを経て実現するため、その前段階となる関係人口の創出に関する施策について、内部での数値目標設定と併せた検討を求めたい。移住のハードルを下げるため、短期滞在をターゲットとした施策の展開が重要である。例えば、現在の移住検討者向け「お試し住宅」制度に「ワーケーション」の概念を導入し、「お試し移住（ワーケーション目的での居住可能）」等の文言を付加することで、移住検討段階に至っていないものの鶴岡に関心を持つ層（リモートワーカー等）の短期滞在促進が期待できる。この取り組みは実質的な制度変更や多額の予算を要さない効率的な施策であり、利用者増加を通じて関係人口の増加を図り、将来的な移住につなげていく段階的なアプローチとして、是非検討いただきたい。

委員

- ・図書館のホームページからだけしかディスコードに入れないので、登録する人が同じ人だと同じ人の声しか届かないと思う。是非たくさんのデジタルプラットフォームをこれから活用していただきたい。
- （事務局）
- ・デジタルプラットフォームは図書館の基本構想づくりで実証的に開始している。今年度、構想づくりを進めるにあたってどのような使われ方をしていくかなど検証し、来年度以降に図書館であれば、基本計画というステージがあり、また来年度は様々な市の内部の計画づくりが予定されているので、横展開での活用も十分可能性があると考えている。例えば市のホームページのスライダーを活用するなど、幅広く活用しPRが展開できるよう、教育委員会と協議しながら進めていきたい。
 - ・同じ人が投稿することについては、それだけ熱量があると認識している。できるだけ自由に議論できるということで、何回も出される同じ意見については対応を検討する必要があると思う。デジタルプラットフォームではそのような市民の意見もオープンになり、市民対市民の関係性も生まれてくるので、またそこから意見が生まれるなど、様々な反応が出るものと感じており、デジタルプラットフォームには可能性があると考えている。

委員

- ・デジタルプラットフォームがあることさえ知らない人へどうらせていくかが重要。実は一番必要としている人へ情報が届いていないことがあるのでどのように情報を届けていくか検討していくべき。

委員

- ・今日の審議テーマは、総合計画の取り組みを市民にどう発信していくのかということ。その点からは、ディスコードなどの媒体を使って取り組んでおられることを評価したい。一方で私は、伝える手段、媒体ではなく、その前提にある「何を伝えたいのか」ということが、より大事だと思う。たまたま図書館が議題になったので図書館を例に述べたい。
- ・今の発信内容は、今ある図書館が建て替わって新しくなるので、みんなで議論しましょうということ。しかしそれでは図書館をこれまで利用している人しか関心を示さないだろう。

- ・図書館は、紙媒体をストックする場所から、大きく役割を変えている。静かに本を読むだけではない多様な人の集うまちの中の広場になりつつある。また社会課題を解決する場、また社会包摂の場所にもなろうとしている。
- ・そのことから、中心市街地に図書館をつくるということは、中心部をどうつくっていくのか、まちでの暮らしの環境をどう組み立てるのかということと深く関係する。
- ・発信すべきは、上記のようにまちづくりと不可分の図書館づくりをやっているので、一緒に考えましょうというメッセージ。
- ・また現在は図書館部局だけで発信しているが、まちづくりに関連する部局も加わり共同で発信していけば、議論の幅が広がり、広く市民の関心と呼ぶ情報発信になると思う。

委員

- ・図書館を新しくするということを多分多くの方は古くなったからだと思っている。新しいまちづくりの中で、図書館がどういう役割を具体的に果たすのかということをセットにして発信していく必要があると思う。一方で、理想を膨らませていくと、すごく良い案ができると思うが、結局予算の制限でできないということで決着してしまう問題をどこでどのようにすり合わせていくかということも課題である。
- ・この時期、特にカラスの糞が気になる。これは全てに関わる問題と感じている。市でもかなりの研究費を使って対策をしてきたが、根本的な解決にはなっていない。電柱を地中化しても、別の木に集まるだけなので解決にはならない。食文化創造都市としてのメイン飲食店を含む場所の周りまでかなりの被害を受けている。やはり市でも専用の清掃車や人などを雇って、早急に美しく清潔にしないといけないと思う。不潔だと思う観光客も多いと思うので喫緊の課題と感じている。

「総合的なデジタル化戦略の推進」について

委員

- ・デジタル人材をどのように地元で育成していくかが、大きな課題だと思っている。デジタル化人材というのは、技術的な人材だけではなく、世の中の地域課題などを、デジタルの技術も使いながらどう解決していくかを考える人材である。こうした人材を育てていくことが大切である。ぜひこの総合計画の中にもうまく位置付けていただきたい。

→（事務局）

- ・委員がおっしゃる通り、技術者を養成するだけではないと考えている。技術者であれば鶴岡工業高等専門学校などの養成するところがあるので、行政では地域課題を解決する人材を幅広く育成していきたい。

全般

委員

- ・総合計画の普及・啓発について、小学校の高学年以上の児童生徒への総合計画を用いたワークショップはとても有効だと思う。自分も委員に任命されなければ総合計画へ意識が向かなかったと思う。なぜかと言うと、一つはそういう教育を受けてこなかったこと。もう一つは自分の出した意見を取り入れられる経験を一般の人はしてこないと思うが、自分の意見が取り入れられ活用されることにより、市政へ興味を持つことのきっかけになるのではないかと思う。
- ・公益大で養成している地域共創コーディネーターや庄内南部定住自立圏の事業で行っているファシリテーター

研修などでファシリテーターが増えていると思うので、是非学校へ出向いて、ワークショップなどを行ってほしい。講師の先生を探すのも大変だと思うので、子どもだけではなく、学校の先生を対象にしてみても面白いと思う。

委員

- ・市民ワークショップは何を目的とするのが難しいと思う。意見を吸い上げようとする市職員の熱意が勝っており、子どもたちにはまちづくりの仕組みそのものの理解があまり深まっていないのではないかと感じる。
- ・市民ワークショップは多くの場合単発であるが、やりっ放しだと意味が無いので次のステップを考えていく必要があると思う。

委員

- ・イベントは単発で終わらせないでつなげていくことが重要だと私も最近の体験として思っていた。図書館ミーティングに参加した時にやはりPR不足であるという意見が市民の方からたくさん出ていた。もっと文化施設とかも含めてつなげてPRしてき、連動して企画していく枠組みが必要だと思う。
- ・子どもたちが何かを学んだ先に、自分がやったことが形になる経験がとても大事であると思う。子どもが鶴引農工連の社会科見学に行ったことがきっかけで、今まで食べなかった「しなべきうり」を食べようになり、家族にも「しなべきうり」を買おうと言うようになった。学校でPRのポスターも作り、ホームページにも掲載されている。子どもが、実際に社会で自分がやったことが役立ったり、受け入れてもらえたりするという経験をするこゝとで広がっていく。そのようなことを考えていただきたい。

委員

- ・松ヶ岡に企業研修や子どもたちがたくさん来るようになった。そのときに感動してくれるのは、151年続いた蚕室、400年続いている瓦と柱である。手をかければずっとつないでいける、使い捨てにしない時代だったということ。酒井家やだだちゃ豆などもそうであり、それが鶴岡の強みである。
- ・資源循環型社会と言われ続けているが、大量生産大量消費、それから大量破棄が今の状況。そのようなことが、全否定される時代が必ず来るはずである。長く使えることの方がカッコいいことを子どもたちに教えていかなければいけない。
- ・デジタル化が進むのは良いが、やはり人間にはコミュニケーションが必要。学校のクラスや子どもの数が減っていきコミュニケーションが少なくなった時は、学校統合が必要と思う。
- ・何か新しいものを作って、それがカッコ良くても60年経ったら壊さなければいけないのが現在の社会状況。多分タクト鶴岡は50年、100年、自慢できることで作ったと思う。出羽三山が1400年繋がっているのも、鶴岡の外の人から見ると、それがカッコよくて先端なことをやっていると感じると思う。
- ・鶴岡には何も無いと思って鶴岡から出て行った人は帰ってこない。子ども達が外に行って、生まれた街を自慢できるようにするべき。鶴岡にはこういうものがあるんだと言えるように、自慢できる建物を作ってもらいたい。

以 上